

<事業概要>

【概要】

観光庁では、観光分野におけるDXの推進により、旅行者の利便性向上や観光産業における生産性向上等に取り組むとともに、地域間・観光事業者間の連携を通じた地域活性化や持続可能な経済社会の実現を目指した取組を推進しています。令和4年度は、旅行者の移動・購買等に関するデータを活用して、観光地経営の高度化を図るため、地域内・地域間・事業者間のデータ連携や、収集したデータの利活用等に関する実証事業を行いました。

【実証事業】

- DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進による観光・地域経済活性化実証事業
- 持続可能性の高い観光地経営の実現に向けた観光DX推進緊急対策に係る実証事業

令和4年度DX事業の採択案件の一覧



※本事業において採択した実証事業については、観光庁Webサイト内及び観光DX事業公式Webサイトにて紹介しています。

- ・観光庁Webサイト：https://www.mlit.go.jp/kankoch/shisaku/kankochi/digital_transformation.html
- ・観光DX事業公式Webサイト：<https://kanko-dx.jp/>

<成果報告（登壇する実証事業実施者）>

■”まち全体が一つの温泉旅館”のDX化実現事業

団体名：豊岡観光DX推進協議会

事業概要：豊岡市では、宿泊客1人1泊当たりの観光消費額、平均宿泊日数ともに、周辺の観光地と比較すると低いという課題がありました。これに対して、地域に共感したり、愛着を抱き、何度も訪れ、長く滞在してもらう旅行形態である「コミュニティ・ツーリズム」を確立させることで、観光消費額・平均宿泊日数・域内周遊・再来訪率を増やし、持続可能な観光地を目指すため、城崎温泉における宿泊施設のPMS(※1)を統一し、2021年度に構築した「豊岡観光DX基盤」上にCRM(※2)システムを構築・活用して、滞在価値の向上・周遊やリピート客の促進を図る取組をご紹介します。

(※1)プロパティマネジメントシステム：ホテルや旅館の運営管理システム

(※2)カスタマーリレーションシップマネジメント：顧客関係管理システム

紹介URL：<https://kanko-dx.jp/case-study/96/>

“まち全体が一つの温泉旅館”のDX化実現事業 (豊岡観光DX推進協議会)

実施地域
兵庫県豊岡市 城崎温泉エリア

事業期間
令和4年5月～令和5年1月(予定)

事業概要

2021年度に城崎温泉全体の宿泊予約情報や宿泊在庫情報等を自動集約し、データを可視化して観光地マーケティングに活用するシステム(豊岡観光DX基盤)を構築し、本実証では、宿泊施設間の情報一元化とCRMシステムの構築を軸の中心として、さらなるマーケティングの強化を目指す。

また、「豊岡観光DX推進協議会」において専門家を交え、今後の消費データとの連携など活用性を高めたシステム構築・データ活用について検討を行う。

構築したCRMシステムを活用し、滞在価値の向上・周遊やリピート客の促進による消費の拡大に向けた実証実験を実施する。

また、2022年度以降は、観光客・事業者のPOSデータとの連携を視野に入れ、異なる観光客の行動軌跡に向けて取組を推進する。



■観光データ連携機能構築による観光事業者の収益向上に向けた実証事業

団体名：福井県観光DX推進コンソーシアム

事業概要：福井県では、観光客の消費や移動の実態が把握できるデータが乏しく、観光施策立案や商品開発は経験と勘に頼っており、施策の効果や結果が可視化されていないという課題がありました。これに対して、データを収集し実態を可視化することで新たな観光商品開発や既存観光地の磨き上げが可能となり、将来的には需要予測を基に地域観光事業者の仕入れの効率化等の収益向上へ繋げることができるという仮説のもと、スマートフォンアプリ「ふくアプリ」での消費やクーポン利用履歴、SNS等から収集された観光関連のデータをDMP(※1)である福井県観光データ分析システム「FTAS(エフタス)」に集約・解析し、オープンデータとして公開しました。地域の各事業者が、FTASに蓄積されたデータを観光商品・集客ポイントの開発や既存観光地の磨き上げに活用できる仕組みの構築に係る取組をご紹介します。

(※1)データマネジメントプラットフォーム：自社と外部の様々なデータを一元管理・分析する基盤

紹介URL：<https://kanko-dx.jp/case-study/82/>

観光データ連携機能構築による観光事業者の収益向上に向けた実証事業 (福井県観光DX推進コンソーシアム)

実施地域

福井県

事業期間
令和4年6月～令和5年1月(予定)

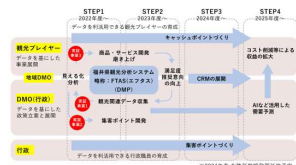
事業概要

行政や事業者が、データドリブンで施策・取組立案や商品開発、プロモーション、事業展開等ができる地域とする。DMPの構築と商品連携によるマッチョポイント・集客ポイントの創出に取り組み、福井県全体の「旅で楽しむ」の実現を目指す。

また、2022年10月に日本最大級のオープンファクトリーイベント「RENEW」が開催される機会を活用して、様々な動機・消費(クーポン)・SNS等のデータをDMPに集約するとともに、個人情報をマスキングしたデータに整形し、データのオープン化を図り、行政や事業者の取組立案やデータマーケティングの取組改善に活用する。

実施体制

観光事業者：ふくいヒトモデザイン(株)、(公)福井県観光連盟、Code for FUKUI、(財)basicmath、(財)フキ、
(一社)SDG、(株)ふくいのデジタル、(株)福井新聞社、
(株)福井銀行



■一極集中下の来場客を活用した地域経済活性化事業

団体名：スポーツイベントツーリズムコンソーシアム

事業概要：スポーツ興行は、定期的に人口流動や消費をもたらすイベントですが、スポーツイベント来場者を周辺地域に誘導することができていないという課題がありました。そこで、スポーツイベント来場者に対して、戦略的な情報発信により地域周遊を促し、経済活性化に繋げるために、北海道札幌市・茨城県鹿嶋市・京都府・静岡県清水市・福岡県福岡市の5地域を実証地域に設定し、“ユニ着て旅する”をコンセプトにスタジアムでのJリーグ試合観戦の前後に周辺地域への観光を促すためのスマートフォンアプリ「ユニタビ」を開発しました。当アプリを介した情報や特典の提供により、周辺施設の周遊促進を図るとともに、スタンプラリー機能を活用した来場者の動態データを分析した取組をご紹介します。

紹介URL：<https://kanko-dx.jp/case-study/95/>

一極集中下の来場客を活用した地域経済活性化事業 (スポーツイベントツーリズムコンソーシアム)

実施地域

北海道札幌市、茨城県鹿嶋市、静岡県静岡市、福岡県福岡市

事業期間

令和4年6月～令和5年1月(予定)

実施体制

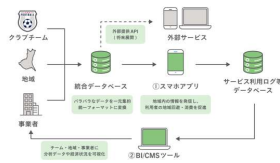
観光等事業者：DFA(株)、(株)ナビタイムジャパン、
プロイットマップファイナンシャルアドバイザー(合)

事業概要

4つの地域における事業者やクラブチームが保有・発信する情報(観光・飲食・混雑情報等)を一元的に集約した情報発信基盤・アプリを開発し、Jリーグの公式戦などの数万人が集う場で、戦略的な情報発信等による周遊の促進や人流の誘導等による消費の拡大を図る。

また、「都市・観戦型」札幌・福岡、「郊外型」鹿嶋・清水を先駆モデル実証地域に設定し、地域間連携の加速や相互送客の促進により、これまでの懸念に覆われない継続的な経済効果を目指す。

さらに、アプリ上で取得した顧客属性や圏域情報、GPS等の行動履歴、来店手段等の情報を各県においてデータ共有することで、さらなる消費や交流、相互送客につなげる。



ダウンロードは
紹介サイトから

「ユニフォームを着て、街を旅する」

をコンセプトに、サッカー観戦と合わせた体験を促進するアプリを提供

観戦QRチケットを登録すると、**スタジアム・地域に紐づく情報**が閲覧可能

おすすめ店舗紹介

サイン掲載、スタッフ行きつけ、ファン行きつけ等の店舗を紹介

観戦&観光ガイド記事

ユニフォームを着て、スタジアムだけでなく、試合前後の移動中や街を満喫するためのガイド記事やコラムを発信

経路探索

試合開始時間に合わせて、複数のナビアプリを連携した経路検索が可能

<登壇者>

観光庁 観光資源課 新コンテンツ開発推進室 佐藤室長による開会のご挨拶では、観光DXの目指す方向性や今後の取組についてお話しします。また、観光について幅広い見識を持つゲストをお呼びしてトークセッションを行いながら、観光DXの推進で成果を出すにはどのような体制・プロセスで取り組むべきなのか、観光分野におけるデータの利活用がなぜ重要なのか、これから先の観光分野とDXの可能性等をディスカッションする予定です。

■開会のご挨拶



佐藤 司（さとう つかさ）氏

観光庁 観光地域振興部 観光資源課 新コンテンツ開発推進室 室長

観光庁において、観光地における消費額増加や体験価値向上を目指し、観光分野におけるDXを通じた持続可能な観光地域づくりや第2のふるさとづくりやワーケーションを通じた国内交流拡大の推進を担当。

■トークセッション（1）

「観光DX事例から学ぶ地域が稼げる仕組みづくりと取り組むべきプロセス」



池上 桂一郎（いけがみ けいいちろう）氏

株式会社西村屋 常務取締役

慶應義塾大学環境情報学部在学中の1996年、学内発のウェブマーケティング企業立ち上げに取締役として参画。大手広告代理店、調査会社との協業に尽力した後、2007年より城崎温泉の旅館・西村屋のIT担当室長として社内外の情報化とインバウンド対策に取り組む。2015年より現職。



日野 昌暢（ひの まさのぶ）氏

株式会社博報堂ケトル チーフプロデューサー

2000年に博報堂入社。14年間の営業職を経て2014年よりケトルに加入。また「本質的な地域活性」をマイテーマに、「外から目線」で地域資産を再編集し、地域のプレイヤーの“関わりしろ”を作りながら、事業、プロジェクト、プロダクトを共創し、開発して、情報発信を行っていくことを得意とする通称“ローカルおじさん”。主な受賞歴に、2度のACC TOKYO CREATIVITY AWARD グランプリ(2018, 2022)、グッドデザイン賞BEST100(2022)、Spikes Asia ゴールド(2019)、カンヌライオンズ ブロンズ(2013, 2019)、ADFEST ゴールド(2019)など。



秋本 純一（あきもと じゅんいち）氏

観光庁 観光地域振興部 観光資源課 新コンテンツ開発推進室 専門官

観光庁において、観光地における消費額増加や体験価値向上を目指し、観光DX事業の推進を担当。

[ファシリテーター]



山田 泰弘（やまだ やすひろ）氏

ブランコ株式会社 代表取締役CEO/CCO、アートディレクター、二級建築士インテリアデザイナー、建築現場監督、建築営業マンを経て、2006年にデザイン会社ブランコ株式会社を設立。企業ブランディングを軸に、ウェブデザイン、グラフィックデザインを強みに事業を拡大している。また、福岡IT・クリエイティブコミュニティの中心人物の1人として、2011年に明星和楽の立ち上げ、Fukuoka Growth Next のブランドマネージャーなどを歴任し、今に至る。

■トークセッション（2）

「観光DXで実現されるこれからの観光」

じゃらんリサーチセンター長 とりまかし編集長 沢登 次彦 氏

東北芸術工科大学客員教授、コミュニティデザイナー 陳内 裕樹 氏

旅行系インフルエンサー 大迫 瑞季 氏

ブランコ株式会社 代表取締役CEO/CCO、アートディレクター、二級建築士 山田 泰弘 氏

※本セッションの詳細は、追って公式Webサイトや参加申込ページでご案内します。